

会員の皆様へ

会長 豊田 勝良

クリスマスのイルミネーションが華やかに街を彩る季節となりました。日頃より町会活動に対しましてご理解、ご協力を頂きありがとうございます。

本年度もコロナウイルス感染防止の為、思うように町会活動もできませんでした。現在、国内の感染者は少なくなっておりますが、世界的には変異株が猛威を振るっており、いつ国内に感染者が蔓延するか予断を許さない状態です。残念ですが、来年度の新年会も中止といたしました。一日も早くコロナウイルスが終息し、普段の日常生活に戻れますよう祈るばかりです。町会員の皆様には引き続き健康に留意し、お過ごしいただきたいと思います。



文化部交流部

第 27 回 石神井町会文化展の開催

一年ぶりに文化展を開催する予定です。但し感染状況により中止になる場合もあります。

町会の子供から大人までの絵画、書、写真、工芸等の作品を展示します。まだ感染の恐れがあるためマスク着用、飲食はできません。お誘いあわせの上、ご来場ください。

日時:2月25日(金曜日)13:00~2月27日(日曜日)12:00

場所:練馬区立男女共同参画センターえーる 3階

文化展に出品する作品を募集します

皆様の絵画、書、写真、工芸、手作り作品を募集しています。出品希望の方は以下のところへ住所、氏名、電話番号、作品の種類を2月20日までにお申し込みください。

気楽な家(石神井町8丁目)03-5393-1023

●搬入方法 ご自身でえーるに持参(持参できない方は要相談)してください。

2月25日10時~11時

おうち時間が増えて制作されていた方も多いのではないのでしょうか?

ぜひこの機会に展示してみませんか?お待ちしております。

リサイクル部

古紙回収日の変更

令和4年1月23日(日)→16日(日)に変更になりました。

お間違えないようご注意ください。



各部のお知らせ

防災会

11月に予定していました石神町会・防災訓練ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昨年同様今年も中止になり、防災会役員の防災意識向上の為石神井消防署・石神井公園出張所にお越し、11月27日(土)に防災教室を開催しました。出席は13名でした。

石神井公園出張所 都築所長による防災教室の講和では、石神井消防署管内の今年の火災件数は、11月26日現在60件で、建物火災48件、車火災4件、他の火災8件でした。

原因は、①電気 ②タバコ ③こんろ ④放火の順で多く、注意すべきは、以下の点です。

- ① 一A. 電気火災では電気ストーブが最も多く、
 1. 周囲に燃えやすいものを置かない。
 2. 外出時や就寝時には必ず消す。
 3. ストーブの近くで洗濯物を乾かさない。
- 一B. 電気火災ではコードが原因の事も多く、身近に潜み、知らない間に出火します。
 1. コンセントの周りに付いた埃から出火する事があり、コンセントは定期的に清掃。
 2. 使っていないコンセントは、抜いておく。
 3. 家具などの下敷き、折れ曲がり要注意。
- ② タバコの出火原因は、死者発生原因第一位です。
 1. 飲酒 ⇒ 喫煙 ⇒ うたた寝の連鎖に注意。
 2. 吸殻を灰皿にためない。
 3. 寝たばこは絶対しない。
- ③ こんろは住宅火災発生原因第一位、着衣への着火もあり注意が必要です。
 1. 調理中に離れない
 2. 周囲に燃えやすいものを置かない
 3. 安全機能(Siセンサー)付きのこんろを使用する。



以上が住宅火災の主な出火原因とのことです。気を付けましょう。

講話の次は、君の命を守りたいより地震に備えるビデオを觀賞しました。地震によるケガ人の3~5割が家具類の転倒・落下・移動によるとのこと、身の安全、避難通路を確保するためにも、今すぐ【家具転倒対策】を行うべきだと思いました。

ビデオの後、初期消火訓練を行い、約一時間の防災教室を終了しました。

地域福祉部

認知症勉強会の報告

毎年恒例の認知症勉強会が、11月18日(木)に石神井庁舎で行われ、20名が参加されました。

人生100年時代ともなると、認知症は誰でもが患う可能性のある病気です。インフルエンザなどと同じように、誰でもが認知症について正しい知識を身に付け、認知症の人やその家族を暖かく見守り、手を差し伸べられるようになることが求められます。

また、認知症になった人は、認知症とともに生きる人生があるということを理解し、認知症があっても前向きに生きるという姿勢が大切です。

石神町会と石神井地域福祉を考える会は協力して毎年この時期に認知症勉強会を行ってきましたが、今年は石神井地域包括支援センターの鈴木かつみさんを講師にお迎えしました。

はじめに、鈴木かつみさんが中心になり、石神井地域包括支援センターの保坂さん、肥沼さん、山口さんも協力して「認知症サポーター養成講座」を行い、その後、町会の角地地域福祉部長が「認知症になってもだいじょうぶ！そんな社会を創っていこうよ」(藤田和子著)を要約し紹介しました。

認知症サポーター養成講座は標準教材「認知症を学び地域で支えよう」に沿って行われ、また認知症の方への接し方についてのDVDを見ました。認知症を正しく理解し、上手におつきあいをすれば、幻覚・妄想とか徘徊・暴力行為などのいわゆる周辺症状・行動心理症状といわれるものは、かなりの程度防ぐことができます。

また、著者の藤田和子さんは元看護師で若年認知症になって10年の方ですが、認知症当事者として、「認知症になってからも、その人の人生は命ある限り続く。認知症になっても安心して”希望”と”人としての尊厳”を持ちながら生きられる社会にしていきたい」と訴えるとともに、「認知症とともに自分らしく生きる」ことの大切さを伝えてくれています。



地域情報

3回目の接種

1日の感染者は僅かとなり、通常ならもう問題になりません。しかし、新たなオミクロン変種の感染拡大が予想され、次の爆発を待っている不穏な状況。今我々に出来る防御策は、3回目のワクチンを接種する事だけ。接種は今の段階では、最後の接種日から7か月半位に、区から接種券が、前回と同様に送られてくるそうです。その後は我々が電話で医院に予約していました。しかし今回はとりわけ掛かりつけ医院の場合、予め接種日と時間を医院が決め電話で通知してくる方式に変えた医院があります。ところが前回通り電話で予約をしなければならない医院もあり、通院時に確認しておくことが必要です。更に、今後感染が急激に拡大すれば、接種日を前倒しにする事もありえそうで、当分3回目の接種の情報は、見逃さないようにすることが肝心です。

八雲神社(やくもじんじや)

町会の事務連絡室「気楽な家」がある「石神井8丁目」交差点があります。その先、道路の左側に見えるのが「八雲神社」。前号で紹介した「石神井神社」の丁度西側に位置しています。

八雲神社には、朱色が鮮やかな鳥居とこじんまりとした社があります。境内には以前大泉の方にあった水神様を移した末社の祠があります。

石神井神社よりも小さく、一見大地主の屋敷神にも見えます。大正4年11月に石神井村役場が編輯発行した「石神井村誌」には、この「八雲神社」は記載されていません。境内が狭く、今の氏子は十数名。宗教法人ではありません。

東京の八雲神社は3社だけで、なぜ八雲神社と言われるのか。確たる史料は伝わっていません。



しかし、特異な点として、人間が作った社格の基準と関わりなく、人知を超えた神徳の力があると、昔から地元では篤く信仰されていることです。代々この神社を守ってきた本橋家の当主にお話を聞きました。

何代も前、江戸時代だそうですが、この八雲神社を石神井神社に移す計画があった。いざ移してみたら八雲神社の氏子、地元の人に、酷い疫病が流行り、これは神の祟りと思い再度元の土地に戻したら、皆平癒した。

疫病退散の祈願をこの神社の神にしたら治ったという逸話は昔から伝えられ、今でも信じられていて、とりわけ今回のコロナ感染病拡大以来、参拝者も多くなったとの事。地元の素朴な篤い信心が感じられます。

社の中には中央に主祭神、建速須佐之男命。向かって右側には、八俣の大蛇の生贄にされそうになった時に須佐之男命に救われ、妻となった櫛名田比賣神。左側には稲荷大明神が祀られています。

全国の八雲神社は、八坂神社、祇園社と同様に須佐之男命を祀っていますが、社地にキュウリが入る事を禁ずるとか、食べてはいけないとか、作ってはいけないなど、キュウリに纏わるタブーが伝わってきました。由来は、須佐之男命を主祭神とする八坂神社の社紋が、キュウリの実の断面と似ていて食べるのは恐れ多いとか、初めにキュウリ畑に降り立ったとか、雷に驚きキュウリ畑に逃げた時に支柱で目を刺し失明した等、面白い諸説があります。そのタブーを守らねばならないと思わせる力は今でも強いようです。

「石神井村誌」によると、大正4年、石神井村は、863 戸。その内、農業が650戸。蔬菜類を東京市中に販売し年々作付けを増やしキュウリの生産も盛んだった。そんな土地柄でも、八雲神社を守っているお宅では、キュウリを作ってはいけないという教えが代々伝えられており、サラリーマンとして長年勤められご自分で畑を作っていた当主も、この教えを守ってきたそうです。今でも作りたいと思う時もあるそうですが、周りが止めるので未だキュウリを作ったことがないと打ち明けられました。

境内にあった「柘植」や「榊」が枯れたので切った所、根から新しい芽が出てきたそうです。枯れて切られた木の根から次の緑の芽が出て、命脈を保とうとしているのを現場で見て不思議な力を感じました。

昔はお祭りには、この社の近くの空き地に舞台が作られて、夜神楽や旅芸人の芝居などが行われていた。今は、6月1日に、氷川神社の神職に頼み「天王祭」を祝い祝詞をあげてもらっている。祇園祭りは、全国的に6月15日が多いようですが、今は石神井神社が6月15日にお祭りをしています。

この祇園祭りの事を調べていたら、安元2年と治承4年に、祇園祭りを中止した事を知りました。「天下死穢」に依り停止した。この時代、天然痘が流行し蔓延、その穢れから内裏や神社を守るためだったと解釈されるそうです。今風の言葉で言えば、感染拡大予防の為に人流が混む祭りを中止したと解釈でき、歴史は繰り返される事を実感しました。

